

# 紅さやか(べにさやか)

登録番号：第2892号

登録年月日：平成3年11月19日

登録者：山形県（山形市松波  
2丁目8-1）

育成者：石塚昭吾 佐竹正行 佐藤 功 来歴：「佐藤錦」と「セネカ」の交雑  
西村幸一 新野 清 木戸啓二

矢野和男 高瀬紘一 安藤栄寿

松田昭吾 野口協一 大沼幸男

鈴木千代吉 渡部 昭 山口正己

石黒 亮

実生

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿はやや直立、樹勢はやや強である。枝の発生密度は多く、はげ上りの心配はない。枝梢の太さはやや細く、色はやや褐色を帯び、節間長はやや短い。皮目の形は円、大きさは中、密度は多である。葉形は短楕円形、葉の大きさは中で「佐藤錦」程度である。蜜腺の形は腎臓形である。開花期はやや早く、「ナポレオン」とほぼ同時期で、「佐藤錦」より1～2日早い。芽の形は鈍で、花束状短果枝の着生はやや多く「佐藤錦」程度である。花の大きさは大で、生理落果が少なく、結実性は中～やや多である。

交雑和合性のある品種は「佐藤錦」「ナポレオン」「紅秀峰」「正光錦」などであり、これらの混植園で十分結実が見込まれるが「高砂」とは交雑不和合性であるので留意する。

### ■果実特性

果実の外観は短心臓形で「佐藤錦」と似ている。果頂部の形は平で浅く凹み、梗あいの深さおよび広さは中である。果実の大きさは6g程度で「高砂」くらいである。核は短楕円で、粘離は半粘核である。果皮色は、適期で鮮紅色に着色するが完熟すると紫黒色になる。着色程度は多く、果実全体に着色する。果皮に光沢があり外観は良好である。果肉の色は赤色で、完熟すると紫黒色になる。果肉の硬さは中～やや軟で、果汁は多い。糖度は14～16度と早生品種としては比較的高く、酸味もあり、さわやかな食味である。

収穫期は果皮色が鮮紅色に着色した時期で成熟日数にすると満開後40～45日程度で「セネカ」「ジャボレー」など極早生品種と同時期で「高砂」より早い。

### ■栽培上の留意点

灰星病や裂果の発生は中程度であるが、慣行の栽培体系では特に問題となる点は見られない。降雨による裂果を防ぐため、満開後25～30日には雨よけのためビニール被覆を行うのが望ましい。赤肉品種であるので果皮の着色が容易であるが、淡赤色から鮮赤色、紫黒色へと変化する。着色が淡いうちは酸味が強く糖度も低いので食味が伴わない。鮮やかな赤色を呈した頃から順次数回に分けて収穫するように心がける。また、収穫後も果皮色の変化が見られる。特に着色の淡いものは収穫後2～3日で鮮やかな赤に変化するが、品質は収穫時と変わらず酸味が強く糖度が低い。食味が伴ったものを収穫するようにし、満開後40～45日の鮮やかな赤色の時期に1果重で6g程度、糖度で14～16度になったものを収穫し、出荷するように心がける。

### ■地域適応性

極早生の赤肉品種として特徴づけられ、北海道および本州の冷涼地において栽培は十分可能と考えられる。現在は山形県内でのみ栽培され、山形県の優良品種として位置づけられている。平成7年までの苗木販売本数は、約7,000本となっている。

品種の組み合わせによる収穫労力の分散や観光果樹園の営業期間拡大、主力品種である「佐藤錦」の受粉樹としての効果も期待できる。  
(石黒 亮)